

平成 28 年 11 月 14 日(月)17時から約2時間にわたり京都大学時計台記念会館会議室IVにおいて、「ミャンマーにおける農村の現実と国際開発」と題した総合生存学のミニワークショップを開催しました。

このワークショップは、文理融合・複合的な研究方法で活動している当学館の「複合型」研究会の成果の一部を披露するもので、この会は第4回目の「国際開発研究会」のミニワークショップでした。



ワークショップでは、総合生存学と国際開発（主に開発援助）の関係、総合生存学館の2年生の必修カリキュラムである海外インターンシップについての簡単な説明の後、「大学から世界へ—JICA と大学の協働—」と題して国際協力機構（JICA）関西国際センター（JICA関西）の井田暁子職員による発表が行われました。

その後、今年の8月から9月にかけてミャンマーで実施した海外インターンシップにおける農村調査の詳しい様子が、当学館2年生のパンさんによって、写真やビデオを使って披露されました。

さらに、JICA が援助プロジェクトの形成に使っている PCM (Project Cycle Management) についての簡単な講義がなされ、ミャンマーの農村開発を想定し、海外インターンシップによる農村調査結果も参考にして、参加者全員がグループに分かれ、PCM 中の問題分析ツリーの作成の体験をしました。

問題分析ツリーには正解があるものではなく、また時間の制約もあり、必ずしも十分なワークショップの成果は無かったかもしれませんが、総合生存学館が行っている文理融合、異分野融合のユニークな取り組みの一部としての国際開発や国際協力に対する理解が少しでも進んだのであれば幸いです。

参加いただいた皆様、ありがとうございました。